

貨物鉄道輸送の歴史

JR貨物時代



2010年3月25日
初めてハイブリッド機関車(HD300形式)の試作機が完成



2011年3月12日
初めて最大26両編成の貨物列車が九州に乗り入れ



2011年11月2日
東日本大震災支援のため、緊急石油輸送や災害廃棄物輸送を実施



2013年3月16日
梅田駅138年の営業終了



2016年3月26日
新幹線と貨物列車の初めての共用走行を開始

2005年8月15日
輸送予約システムIT-FRENS&TRACEシステムが完全稼働



2004年3月13日
日本で初めての貨物電車「スーパーレールカーゴ」営業運転開始

1995年1月20日
阪神淡路大震災被災地に救援物資輸送を展開、トラック船舶による代行輸送開始

1994年1月3日
貨物情報ネットワークシステム(FRENS)が始動



1990年6月19日
JR貨物発足後、初めて新形式となる電気機関車(EF200形式)が完成(初のVVVFインバーター制御)



1989年3月11日
JR貨物発足後、初めて新型の直流電気機関車(EF66形式100番代)が登場



1987年4月1日
日本貨物鉄道株式会社(JR貨物)が発足



1988年1月20日
活弁輸送(コンテナ)開始



1988年3月12日
最高速度110km/hのスーパーライナーの営業開始



1988年3月13日
初めて本州と北海道間開通し、貨物輸送を開始(青函トンネル) 貨物駅にトップリフター導入



1986年11月1日
岐阜貨物ターミナル駅で初めてE&S(着発線荷役)方式を導入



1983年1月30日
ヤード系集結輸送を廃止し、直行輸送体系に変更



1959年11月5日
初めてコンテナ専用特急貨物列車「たから」号の運転を開始(汐留～梅田間)

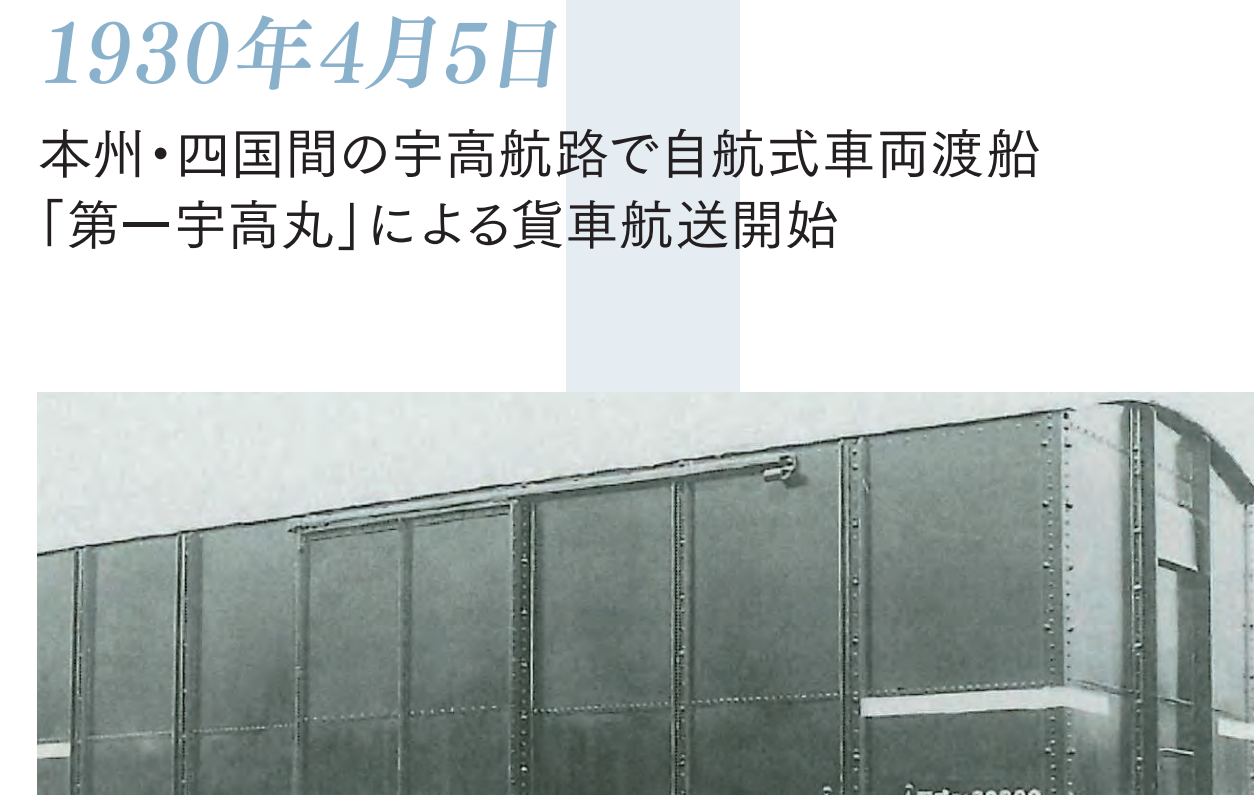


1958年3月31日
貨物駅数が過去最大となる(3,846駅)

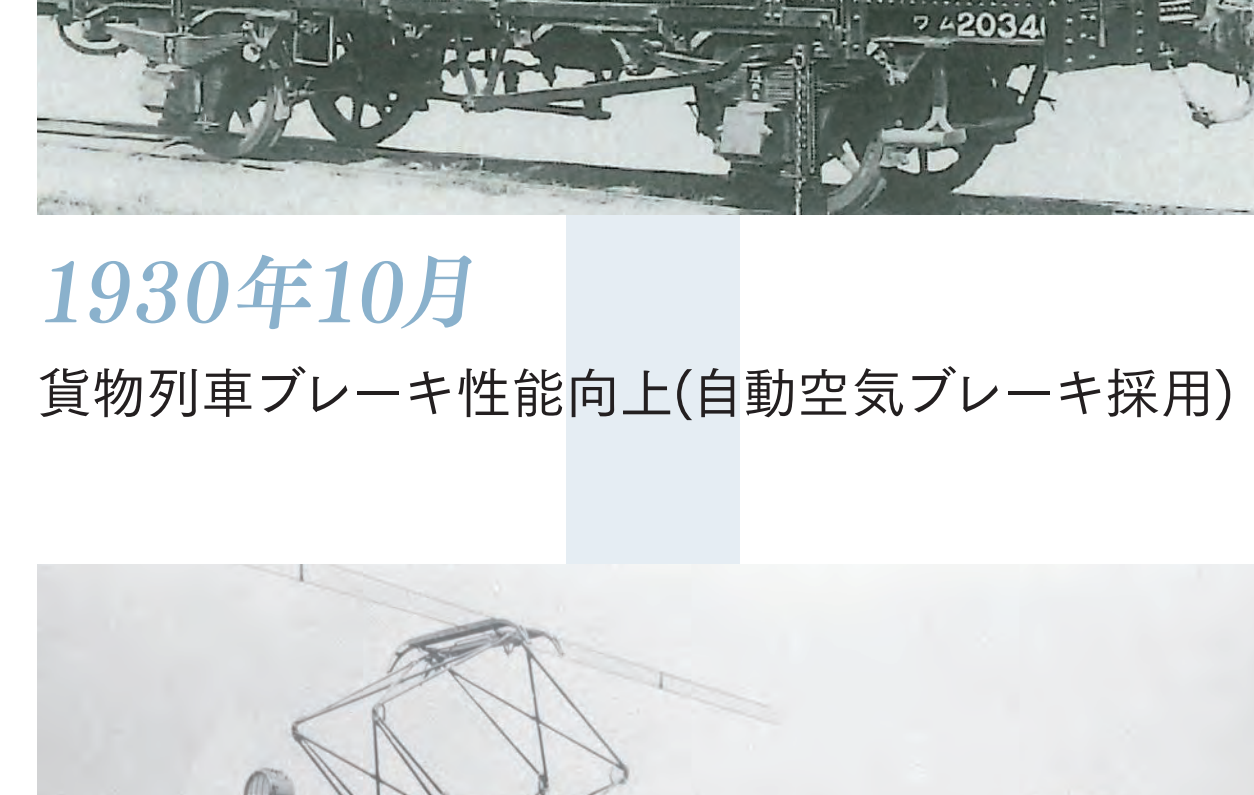
1949年6月1日
日本国有鉄道が発足



1925年8月1日
初めて青函航路で貨車航送開始(客貨便3往復、貨物便1往復)



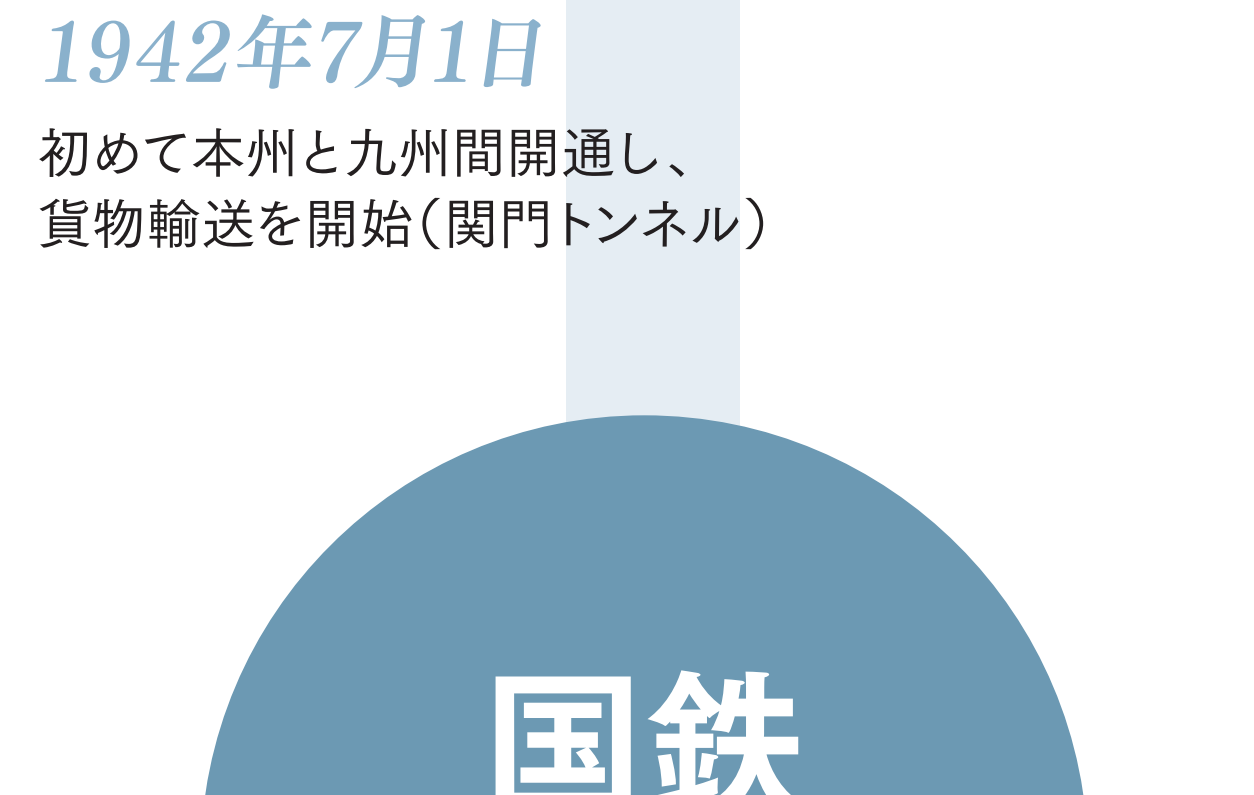
1930年4月5日
本州・四国間の宇高航路で自航式車両渡船「第一宇高丸」による貨車航送開始



1930年10月
貨物列車ブレーキ性能向上(自動空気ブレーキ採用)



1931年5月
貨物列車用機関車として国産のED16形電気機関車の完成



1942年7月1日
初めて本州と九州間開通し、貨物輸送を開始(関門トンネル)

国鉄時代



1925年7月17日
本州線・讃岐線(四国)ならびに連絡会社線で一斉に貨車の自動連結器付替作業を施行



1924年7月31日
初めて日本海縦貫線全線で、貨物輸送を開始(大阪～青森間)



1923年9月1日
関東大震災



1913年6月21日
初めて操車場が梅小路駅(現・京都貨物駅)にできる



1898年8月1日
初めて東海道線全線で貨物輸送を開始(新橋～神戸間)

国鉄発足前



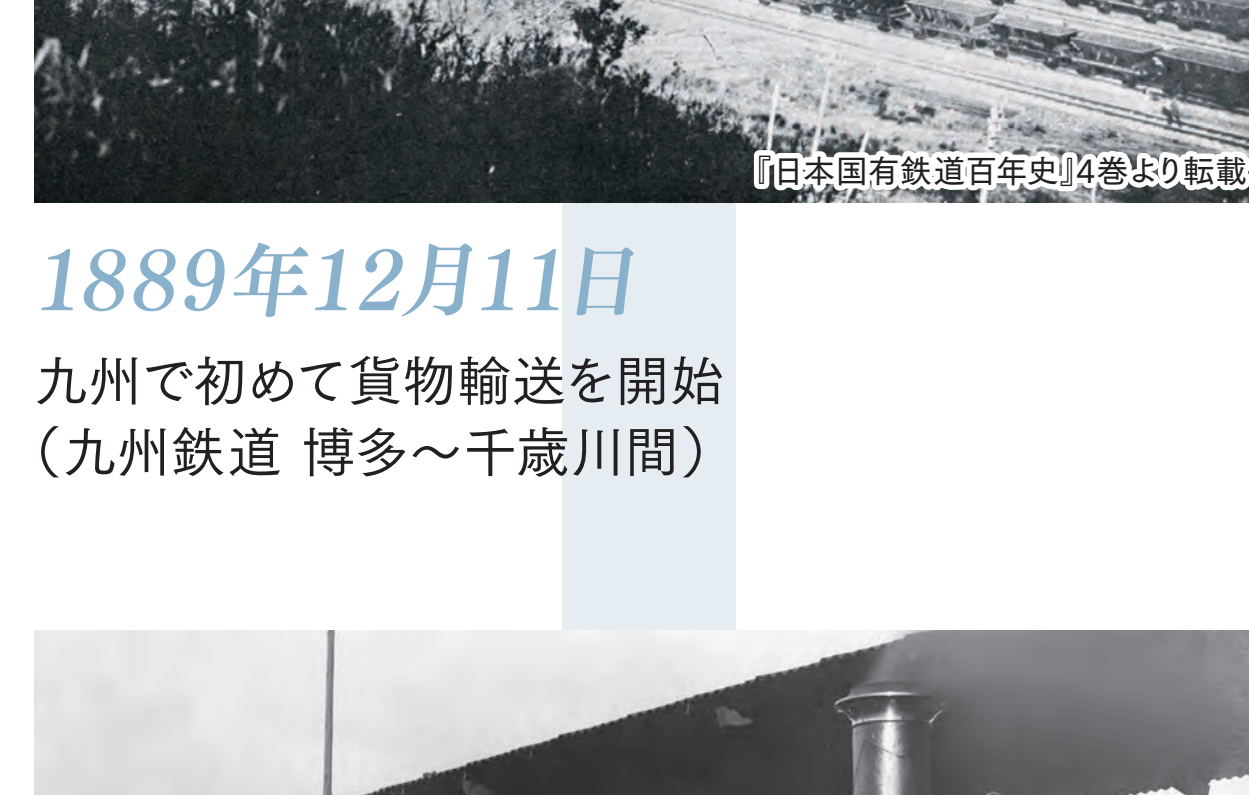
1873年9月15日
日本で初めて貨物輸送を開始(新橋～横浜間)



1880年11月28日
北海道で初めて貨物輸送を開始(幌内鉄道 手宮～札幌間)



1888年10月28日
四国で初めて貨物輸送を開始(伊予鉄道 三津～松山間)



1889年12月11日
九州で初めて貨物輸送を開始(九州鉄道 博多～千歳川間)



1893年6月
初めて国産機関車(蒸気機関車)を導入